

## 1月5日、どのように国会議長が選出されたのか

1月5日の新国会議長などの執行部の選挙は、日本では大変歪められて次のように、報道されました（詳細は、拙稿「二人の国会議長選出の真相」20.01.06 参照）。

「南米ベネズエラで独裁的な支配を続けるマドゥロ政権と、米国などの支持を受けた野党



勢力の対立が続くなか、同国国会で5日、新議長を選出する会議が開かれた。治安部隊が国会を包囲し、多数の野党議員が議場に入れないまま審議され、マドゥロ政権に近い議員が新議長に選出された」（20.01.06 朝日新聞）。

「反米左派のマドゥロ大統領と、米政府の後押しで「暫定大統領」に就いたグアイド

国会議長の対立が続く南米ベネズエラで5日、グアイド氏らが閉め出された状態で国会議長選が実施され、同氏の政敵であるパラ議員が新議長に「選出」された」（20.01.06 時事通信）。

しかし、現在に至るまで、両社とも、内容を修正する報道はありません。その後に筆者が入手した資料、その後の国会の進展状況をみれば、グアイド一派の策謀がいかに国民の立場から離れたものかが良く分かります。国会の勢力図、当日の詳細な動き、新しい国会の動きなどを、ひとつひとつ見てみましょう。

### I. 従来の国会の勢力図と国会の機能

#### 2015年12月国会議員選挙の結果

2015年12月6日の国会議員選挙（167議席）の結果、与党は大敗しましたが、国会の構成はこのようなものでした。

与党 55 議席：

ベネズエラ社会主義統一党(PSUV) 52 議席、ベネズエラ共産党(PCV) 2 議席、ベネズエラ人民団結(UPV)、人民選挙運動(MEP)、PODEMOS、共和国 200 年前衛党 (VBR) など 18 政党で 1 議席。

得票数 5,599,025 票      得票率 38.9%      議席数 55⇒54 名



野党 109 議席：

民主団結会議 (MUD)：正義第一党(PJ) 33 議席、民主行動党(AD) 25 議席、新時代党(UNT) 18 議席、大衆意思党(VP) 14 議席、キリスト教社会党(COPEI)、急進大義党(CR)など 20 政党が 22 議席

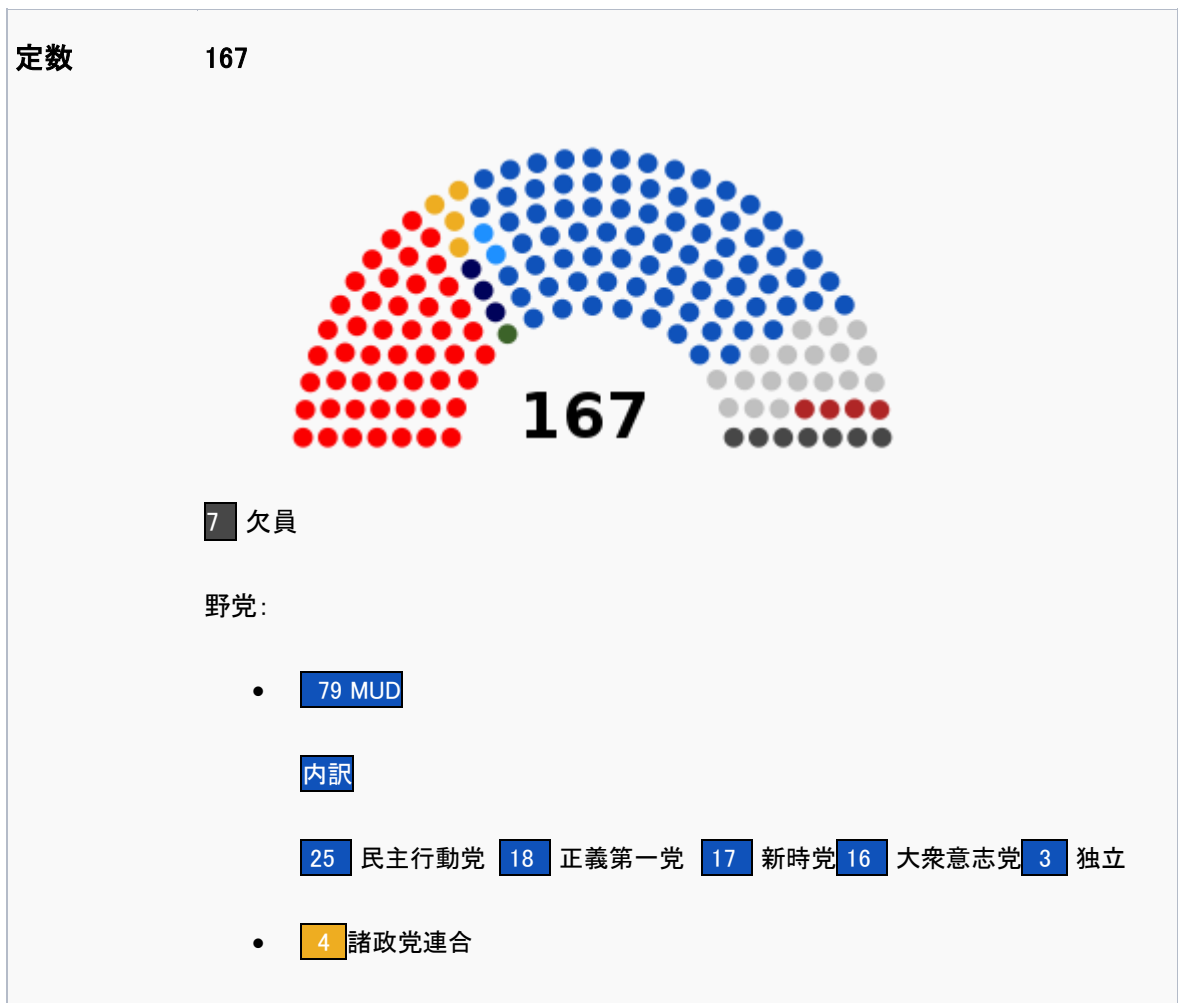
得票数 7,707,422 票 得票率 53.6% 議席数 112\*⇒109 名

\*しかし、2016年1月5日、票が買収された可能性があるとして、投票結果に異議申し立てが行われたことを受け、最高裁選挙法廷が仮保全措置で国会議員4名の当選を保留し、実質163名が議員宣誓を行いました。

しかし、1月6日、最高裁判所選挙法廷が当選を保留とした国会議員4名のうち、野党連合 MUD の国会議員3名の宣誓が強行されたため、与野党の激しい対立が生じ、与党国会議員等は、この MUD 国会議員3名の宣誓により、国会が今後承認する全ての法案が無効になるとの見解を表明しました。また、最高裁は、この国会が、最高裁の判断に従わなかったことから、国会の資格停止を宣告し、現在も続いています。

その後、海外に移住したもの、議員の資格を剥奪されたものもあり、現在の国会の構成は、このようになっています。

野党 106 議席  
与党 53 議席  
中立 1 議席  
欠員 7 議席



- **4** 16-J 分派
- **3** 変革のための連合
- **連合しない野党独立 16**

**野党合計 106 議**

チャベス派離脱: **1** ボリーバル代替戦線 Frente Bolivariano Alternativo<sup>5</sup>

与党:

- **53** 祖国大戦線

従来の国会と制憲議会との関係はどうか。

現在、ベネズエラには、通常国会と、2017年8月に設立された制憲議会（定員545議席）の二つの国会があります。その関係は、どうなのでしょう。通常国会は、資格停止の状態が続いています。

制憲議会への参加を翻意した野党

従来の国会が、政府の政策にすべて反対するどころか、マドゥーロ政権の閣僚の罷免を相次いで行い、与野党の対立が続く中、国会運営が事実上困難となり、2017年5月1日、マドゥーロ大統領は、憲法第347条（制憲議会選挙の許可）、348条（大統領の招集権限）、349条（選挙結果の尊重義務）に基づいて制憲議会の招集を提案しました。しかし、MUDは、即座に拒否しました。この制憲議会は、ベネズエラの、545人の議員によって構成されるもので、最高裁憲法法廷は、同年5月合憲と判断しました。しかし、一般の内外の報道では、「反政府勢力のMUD（民主団結会議）は憲法上問題があると反対し参加しなかったと報道されました。しかし、実は、制憲議会の設立を巡って、与野党は対話を行っていたのです。

マドゥーロ大統領によれば、「MUD（民主団結会議）は、彼らの候補者を登録できるように制憲議会選挙実施を3~4週間延期するように提案してきた。さらにまた、議論を持ちかけてきた。野党は、そのうち二つの党が制憲議会に賛成し、二つの党が反対していた。私は、反対派も制憲議会に入るべきだと考えを述べ、野党に50議席を提案した。すると野党は100議席要求してきたので、それを受け入れた。また、7月30日の選挙前に、野党は、われわれとの会議で従来の国会と制憲議会が共存することについて合意した。そしてその合意書にまさに署名しようとしていた時、ある大使館から野党側の携帯に電話があり、野党は合意書に署名しないと述べた」（17.09.17 Últimas Noticias、17.09.17 Contrapunto）。実際、同年6月、民主行動党のアジュブ党首は、制憲議会選挙への参加を表明していました。

つまり、両国会の役割分担、議席配分については合意が一旦なされていたのです。与党が勝

手に制憲議会を設立したという批判は当たりません。17年7月、制憲議会の投票が実施され、投票率は41.53%でした。野党が参加しなかったため、祖国大戦線が545議席中、503議席を占めました。現在は死亡、離反などにより42議席が欠員となっています。議長は、ベネズエラ社会主義統一党のディオスダド・カページョ（同党副議長）です。

## II. 通常国会の召集と新議長の選出

### 通常国会についての憲法の規定は？

次のように憲法で規定されています。

- 憲法第194条 国会議長1名、副議長2名、事務局長1名、事務局次長1名を選出する。任期は1年。
- 憲法第219条 国会は毎年1月5日に召集なく開会。
- 国会の定足数成立規定は憲法にはないが、国会内規には、半数+1名＝現在は160/2+1=81名

つまり、毎年1月5日に国会で執行部を選出することになっているのです。

グアイドー議員は、昨年1月23日に国会議長として暫定大統領と自己宣言したさい、ポンペオ米 국무長官の指示にしたがい、憲法第233条で（絶対的欠席、大統領の絶対的不在）の場合、国会議長が権限を代行するという条項を強引に法的根拠としました。そこで、グアイドー議員が、今年も引き続き暫定大統領であるためには、なんとしても今年も国会議長に選出される必要があります。したがって、グアイドー氏は、野党の間での国会議長の輪番制合意も無視してでも、国会の選挙結果を無視してでも、国会議長職にいつづけなければならないのです。

### 1月5日午前11時国会が開催される。

#### 午前8時。野党の第一副議長の指示により、国会厳重な警備整う

国会が開催されるが緊張が予想されるので、国会に関係ない人物が入らないように、国会の野党の現執行部、第一副議長サンブラーノ（民主行動党）、第二副議長スターリン・ゴンサーレス（新時代党）が、政府に警備の強化を要請しました。

各国会議員が、身分証明を示して、問題なく入場を開始しました。

#### 午前10時20分 主要野党指導者国会に到着

ファン・グアイドー、ラモス・アジュップ（民主行動党）、現執行部のファン・パブロ・グアニパ（正義第一党）、カルロス・ベリスベステティア（ベネズエラ計画党）などの野党国会議員、数十名が車列を組んで国会に到着しました。グアイドー氏を除き、すべて議場に入場しました。11時前に、野党の議員が、それぞれ、SNSで新しい国会執行部（議長、第一、第二議長、書記長）のリストを提起しました。

#### 午前11時 議員151名入場。強硬派野党首脳も入場

国会内部では、議員総数167名の議員のうち、151人が出席していました。与党議員及びグ

アイドー議長を支持するほとんどの野党議員が入場し、出席。内訳は、各種報道から推測すると、100名が野党議員、その内グアイドー派は70名、反グアイドー野党議員30名、与党議員51名でした（20.01.05 Últimas Noticias, 20.01.06 La Jornada）。国会内規では、定足数は、81名ゆえ、国会は成立しています。出席野党議員の中には、現在もマドゥーロ政権と熾烈に言論戦を戦わしている、スターリン・ゴンサーレス（新時代党）、ラモス・アジュップ（民主行動党）、フアン・パブロ・グアニパ（正義第一党）などの有力な指導者も出席していました。現執行部議員及び選出予定の新執行部議員は、グアイドー議長を除き全員議場内にいました。国会内規で、投票は、出席議員151の半数+1名=76名で決定されることになっていました。

### 12時32分 国会外でグアイドー議長違法入場を交渉

議長のグアイドーは、国会内に入場しておらず、国会周辺にいましたが、国会入場者の二重点検所の最後の点検所に近づき、女性係官が「入場できます」というと、「いや、自分に同行しているすべての議員が入場できなければ、自分も入場しない」と強弁しました。しかし、その議員は最高裁により資格停止になっている議員でした。それでも、グアイドー議長は、この議員が通るまで、自分も通らないと女性警備官に反論し、押し問答となりましたが、結局国会に入場しませんでした。このやりとりは、ビデオ記録にはっきりと残っています。

### 午後1時32分 グアイドー議長を除き、すべての議員の入場を確認

国会内部では、2時間以上待ってもグアイドー議長が入場せず、国会の開会を宣言しないので、ともかく国会を開会するように数名の議員が主張し始めました。午後2時近くになり、野党の民主行動党のウィリアム・ダビラ議員が、メディアに、「資格停止されているカルサディジャ議員とアマゾン県の議員は、入場が認められなかった。それ以外はすべて入場しており、定足数を満たしている」と議会の壇上から宣告しました（20.01.05 Telesur）。

一方、議場内では、グアイドー派の議員が、国会の開会を妨げるため、騒動を起こし、音響装置を破壊し、マイクが使えなくなりました。

### 午後2時 国会審議を開始

グアイドー議長が不在なので、国会の内規により、最年長のエクトル・アグエロ（与党のベネズエラ社会主義統一党議員）が臨時議長に、最年少のノスリウ・ロドリゲス（ベネズエラ社会主義統一党議員）が書記になり、野党のホセ・ブリト（2019年12月正義第一党から追放される）議員が作成した次の新執行部案を、アグエロ議長が読み上げました。



ブリト議員

国会議長ルイス・パルラ（正義第一党）、第一副議長フランクリン・ドゥアルテ（キリスト教民主党）、第二副議長ホセ・グレゴリオ・ノリエガ（大衆意志党）、書記ネガル・モラーレス（民主行動党）、副書記アレクシス・ビベネス（大衆意志党）。

しかし、野党の親グアイドー派は、新執行部案を提出しませんでしたので、ブリト議員案が投票に付されました。投票の結果、ブリト案は、81名の支持を得て、過半数76名を越えていましたので、全員野党からなる新執行部が選出されました。賛成81名の内訳は、与党議員51名、野党反グアイドー議員30名で、反対は野党の親グアイドー議員70名でした。グアイドー



議長は、70票しか獲得できないことを票読みで事前に知っており、敗北をさけるために、国会に入場せず、また自分たちの候補リストも提出しなかったのです（20.01.12 El Universal 保守系の新聞）。しかし、選出された新執行部は、全員野党議員で、正義第一党、キリスト教民主党、大衆意志党、民  
**議会壇上に並んだ新執行部**  
主行動党から選ばれたバランスの取れたものでした。

#### 午後2時45分 米政府の干渉的発言とグアイドー議員のショー

しかし、新国会議長が選出されたことを知った、米務省のマイケル・コザック西半球局次官補代行は、すぐさま、「国会の開催は、定足数不足で、偽物であり、グアイドーは引き続きベネズエラの暫定大統領である」とツイート（20.01.06 Página12）\*。これに勢いづいたグアイドー議員は、国会がすでに閉会しているにもかかわらず、国会の防備鉄柵を乗り越えて侵入を図りましたが、無法な侵入は、当然警備隊\*\*に阻止されました。その状況がグアイドー一付のメディア  
**鉄柵を乗り越えて入場しようとするグアイドー氏**  
により、世界に発信されることを見込んでのグアイドー議員のショーでした（20.01.06 Últimas Noticias, Parra, Maduro）。



\* 米国は、さらにペンス副大統領、ポンペオ国務長官が、グリーン（米国国際開発庁（USAID）長官、エイブラムス・ベネズエラ問題担当特使が、グアイドー氏の勝利として支持を表明しました。OASでも、10日常設理事会でマドゥーロ政権が強権で議員の入場を阻止し、新国会議長を決定したという非難決議が行われましたが、マドゥーロ政権をOASから追放するに足る3分の2、22カ国には達しませんでした（20.01.11 La Jornada）。日本政府は、遅ればせながら1月14日、「1月5日、ベネズエラにおいて、グアイドー国会議長が再選され、同7日、同国会議長が暫定大統領就任を宣誓しました。2019年2月以降、グアイドー暫定大統領を支持してきた我が国の立場は今後も変わりません」という外務報道官談話を発表しました。

\*\*朝日新聞などが報道しているような治安部隊ではありません。

## 午後 5 時半 グアイドー派、別な場所で「国会」開催

グアイドー派は、午後 5 時半、国会近くのエル・ナショナル新聞社会議室で、「特別国会」を開催しました。100 名出席と発表しましたが、国会とこの会議の両方に出席した野党のスターリン・ゴンサーレス（新時代党）議員によれば、実際の議員は 70 人で、30 人は、補欠議員や資格停止議員などでした（20.01.12 El Universal）。



←ゴンサーレス議員

会議では、グアイドー（大衆意志党）を議長に、フアン・パブロ・グアニパ（正義第一党）を第一副議長に、カルロス・エドゥアルド・ベリスベイティア（ベネズエラ計画党）を第二副議長に（20.01.06 El Universal）、アンヘロ・パルミエリ（新時代党）を第一書記に、ホセ・ルイス・カルタヤ（民主団結会議）を第二書記に選出しました。会議では新執行部の宣誓は行われませんでした。この執行部には民主行動党、キリスト教民主党などの有力な伝統的な野党が参加しておらず。憲法では新執行部は「1 月 5 日に国会で選出され、宣誓しなければならない」ことになっていますので、まったく無法なものでした。



エル・ナショナル社屋での「国会」を主宰するグアイドー氏

1 月 6 日

午前 11 時

パルラ新国会議長、新国会を 7 日午前 10 時に招集すると発表。

午後 1 時 20 分

グアイドー議員、民間会社の社屋で新国会を 7 日開催すると発表。

1 月 7 日

午前 10 時 通常国会審議開始



パルラ新議長

国会においてパルラ議長のもとで 86 名出席のもとに国会の審議始まりました。パルラ議長は、議会の制度化をはかるための委員会の設置を提案し、国会の資格停止を解除したいと強調しました。審議は問題なく進み、パルラ議長を委員長とする議会の制度化をはかるための委員会の設置を承認し、散会しました。

### 午前 11 時 グアイドー派、議場に強行突入

一方、グアイドー派が国会に到着し、身分証明書を提示し、問題なく議場に入りました。グアイドー議員は、自らが国会書記として任命したアンヘロ・パルミエリ（新時代党）を入場させるよう高圧的に主張し、資格停止議員として入場を拒否した係官に暴力をふるいました。そして議場に強行突入し、議長席に着き、フアン・パブロ・グアニパ（正義第一党）第一副議長、カルロス・エドゥアルド・ベリスベイティア（ベネズエラ計画党）第二副議長を前にして暫定ベネズエラ大統領として宣誓を行いました。しかし、この宣誓式に



演壇でグアイドーの大統領宣誓を祝福する野党議員はグアイドー支持の 100 名の議員のうち、30 余名のみが列席したにすぎませんでした（ベネズエラ外務省）。

### 午後 2 時 40 分 ポンペオ米 국무長官、グアイドーの暫定大統領 2 期目を祝福

ポンペオ米 국무長官は、直ちにツイッターで、グアイドーの暫定大統領 2 期目を祝福すると宣言、リマ・グループ及び親米政府も追随し、暫定大統領就任を承認しました。

## III. 新風をもたらす新執行部のもとの国会の活動

### 変わってきた海外のマスコミの論調

マドゥーロ大統領は、年末にあたり、一年を振り返り、「2019 年は、大きな困難に満ちた年であったが、人民はそれに屈せず、平和が勝利し、生活を勝ち取った。政府を信頼し、軍民協力の下に米国による経済封鎖を切り抜けた。外貨収入の激減にもかかわらず社会政策は維持され、乳児死亡率は低下した」と述べました（19.12.31 Telesur, Últimas Noticias, 20.01.14 Discurso del Presidente Maduro）。1 月 11 日にはベネズエラの保守系のエル・ユニベルサル紙は、「世論調査データナリシス（これも保守系）によれば、グアイドーのマドゥーロ打倒の計画はことごとく失敗し、グアイドー議長（保守系新聞でも大統領とは呼んでいません）の支持率は過去の 63%から昨年末 12 月には 38.9%に急落したと報じました。海外でも 1 月 6 日フォーブス誌は、「グアイドーは、国会議長選挙で敗れ、もはやベネズエラの最高指導者ではない」と報道（20.01.06 Forbs）。1 月 17 日、ドイツの有力紙、Der Freitag、Frankfurter Allgemeine Zeitung、Fráncfort も、「1 月の国会議長選挙によって、グアイドーは挑戦者から被挑戦者になってしまった」、「約束したことは何ら実現していない」、「グアイドーには、もはやベネズエラを変える力がない」と揃ってグアイドーの凋落ぶりを報道しました（20.01.17 Últimas Noticias）。スペインのポデモス党も、ベネズエラの新国会執行部を支持すると声明しました。こうしたグアイドー議員の真実の姿を目にして国際的なメディアもようやく見方を変えつつあります。ここにはロイターの Angus Berwick 記者（19.08.22Reuters）や一部の日本の新聞が述べるような、「ベネズエラに、キューバの治安



軍が国民の弾圧方法・拷問方法を教え、それによって体制が維持されている」という奇妙な解釈が入る余地はありません。

また、野党が支配する国会は、毎月経済状況を報告していますが（マドゥーロ政権批判が目的で、常に過大な数値になっています）、1月13日に「2019年度インフレは7,374.4%、12月のインフレは33.1%であった。経済ははっきりとした回復軌道にあるとはいえないが、物資は出回りつつあると報告しています（20.01.13 El Universal）。これが、事実に近いとすれば、2018年10月IMFが、「ベネズエラは2019年、1,000万%のハイパーインフレの見込み」と発表したことを真に受けて、ベネズエラの経済危機を破局的と報道し、人道的介入を主張したロイター（18.10.09 Reuters）や日本のすべての通信社、商業・政党新聞報道、アナリスト達は、1,000倍の誤差について報道したことについてどういう説明をするのでしょうか。

一方、自らの政策の誤りを反省しないグアイドー議員は、1月13日、カラカスに本部をおく国際通信社のテレスル社が、ベネズエラの民主主義の進展を阻害していると、新たな弁明を引き出しましたが、キューバのディアス＝カネル大統領に、直ちに反論されました。何が何でもグアイドー「暫定大統領」を支持する米国の財務省は、13日、パルラ、ブリト他6名の野党国会議員が、グアイドー派の国会入場を妨害したとして制裁対象にすると発表。もしグアイドーを支持するなら制裁を解除すると（20.01.13 Infobae）、制裁を露骨に内政干渉の道具に使いました。ベネズエラは、これまで米国の経済制裁で、400億ドルの損失を被っています（20.01.14 Últimas Noticias）。これは、ベネズエラのGDPの13%に当たります。

米国の制裁措置を受け、1月16日、国会の野党109議席中の最大勢力である33議席を占める正義第一党の中の穏健派は、最高裁判所憲法法院に、グアイドー議員をめぐる党内の対立に介入し、党内選挙を行うように要請しました。ブリト議員（昨年12月正義第一党から除名）は、「われわれは、野党であるが、平和的手段、選挙を通じて道を示して行きたい、グアイドーを支持するファッショの右派がわれわれを外国の制裁によって生贄にしようとしているが、党内選挙により執行部を刷新したい」と訴えました（20.01.16 Globovisión）。しかし、正義第一党の現執行部は、それを拒否しました。

米国は、これまで国務省傘下のUSAIDを通じて、ベネズエラの反政府勢力に資金を供給してきました。1月9日、エイブラムス・ベネズエラ問題担当特使は、「多額の資金をベネズエラの反政府勢力に供給してきた。グアイドー合法政府とは、ベネズエラの自由な新聞活動の支援、国会の支援について合意があり、主としてUSAIDを通じて、また民主主義・人権事務所を通じて資金を供給している」と述べました（20.01.09 Últimas Noticias）。これは、とんでもない露骨な内政干渉です。すると、自主的な性格をとりもどした国会は、1月20日、パルラ議長は、「USAIDは、2017年から現在まで4億6,700万



ドルを反政府勢力に渡したが、グアイドー議員は、そのうち19年1月から1億8,000万ドルうけとっている」と指摘しつつ、議会に「USAIDによる反政府勢力に対する人道支援資金の使用についての調査委員会を設置するよう」に提案しました。また、米政府に、USAIDの資金が渡されたルートをベネズエラ国会に明らかにするよう要請しました（20.01.20 Últimas Noticias）。これまでになかった国会の画期的な自立的な態度でした。

#### IV. 国民的対話で自主的な解決を



与野党の国民的対話会議

12日、パルラ議長は、通信社テレスルとのインタビューで、「ベネズエラ問題の解決は、キューバ、ロシア、米国、リマ・グループと関係なく、憲法に基づき、ベネズエラ人自身で取り組まなければならない」と述べました。さらに、同議長は、14日には、「ベネズエラ政府と対決する野党であることを確認しつつ」、野党の過激派に、「国で制度を復活させ、立憲主義に立つ、自主独立の国会を復活させ、憲法にある権限と責務を完全に尊重するよう」呼びかけました。また、グアイドー議員に、すでに存在している一部野党と政府の国民対話テーブルに参加するように主張しました。さらに、マドゥーロ大統領も、年次教書で、この国民対話テーブルに、グアイドー派の野党勢力も参加するよう、国会に仲介を要請しました（Discurso de Memoria y Cuenta 2019 del presidente Nicolás Maduro）。また、マドゥーロ大統領は、ベネズエラ政府は、ノルウェー政府が提案している与野党対話を受け入れる用意があると発表しています。しかし、いずれも、グアイドーは、米国の指図を受けて、対話の条件としてマドゥーロ大統領の退任を条件にあげて、対話を拒否しています。各種の世論調査によっても、ベネズエラ国民の80%以上は、与野党の対話が国の問題を解決すると考えています。国民は、何よりも安定した政治の中で、経済の回復、生活の回復を望んでいるのです。



(2020年1月21日 新藤通弘)